

ウィキペディア

令和元年8月の前線に伴う大雨

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

令和元年8月の前線に伴う大雨（れいわがんねん8がつのぜんせんにともなうおおあめ）では、2019年（令和元年）8月27日から佐賀県と福岡県、長崎県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨による災害を記述する。

長崎県から佐賀県、福岡県にかけての広い範囲で、秋雨前線の影響で線状降水帯が発生し、8月28日を中心として各地で観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった^[2]。気象庁は8月28日早朝に、3県に大雨の特別警報を発表した^{[3][4][5][6]}。

10月11日、農林水産分野を地域を限定しない「本激」として、公共土木分野（多久市・大町町）と中小企業支援（武雄市・大町町）は地域を限定する「局激」として、令和元年房総半島台風（台風15号）とともに激甚災害に指定された^{[7][8]}。

気象庁による命名は行われておらず、行政機関や大企業の多くでは「令和元年8月の前線に伴う大雨」と題号している^{[9][10][11][12]}。

令和元年8月の前線に伴う大雨

発災日時	2019年8月27日 -	
被災地域	● 佐賀県、福岡県、長崎県	
災害の気象要因	秋雨前線の停滞による集中豪雨、線状降水帯の発生 ^[1]	
気象記録		
最多雨量	平戸市平戸で24時間あたり434.0 ^[2] ミリ	
最多時間雨量	佐賀市佐賀で1時間あたり110.0 ^[2] ミリ	
人的被害		
死者		本文参照
行方不明者		本文参照
負傷者		本文参照
建物等被害		

目次

気象状況

雨量の記録

被害・影響

産業への被害・影響

交通への被害・影響

ライフラインへの影響

文化財への被害

その他

行政の対応

自衛隊

警察庁

消防庁

海上保安庁

総務省

文部科学省
厚生労働省
気象庁
国土交通省
環境省
地方公共団体

行政以外の対応

義援金

脚注

注釈

出典

関連項目

気象状況

27日から29日にかけて対馬海峡に秋雨前線が停滞し、集中豪雨をもたらす線状降水帯が生じた^{[2][13]}。28日5時50分、気象庁は佐賀県と福岡県、長崎県に大雨特別警報を発表した^{[3][4][5][6]}。対象地域は佐賀県は全域、福岡県は筑後地方（北部、南部）、長崎県は北部（平戸・松浦、佐世保・東彼）^{[3][14]}。この特別警報は、28日午後解除された^[6]。29日には長崎地方気象台が長崎県壱岐市で「50年に一度の大雨となっている」と発表した^[15]。

福岡管区気象台などによると、台風11号から変わった中国大陸の低気圧、フィリピンで発生中の台風12号、日本はるか南の太平洋高気圧の3つの気象要因が重なり、九州北部の秋雨前線に大量の湿気を含んだ暖気が流入した事によると言う^[16]。

雨量の記録

1時間雨量

佐賀県佐賀市佐賀：110.0mm（28日4時43分まで。観測史上1位を更新）^[2]
佐賀県白石町白石：109.5mm（28日4時41分まで。観測史上1位を更新）^[2]

24時間雨量

長崎県平戸市平戸：434.0mm（28日8時00分まで。観測史上1位を更新）^[2]
佐賀県佐賀市佐賀：390.0mm（28日7時00分まで。観測史上1位を更新）^[2]
長崎県松浦市松浦：379.5mm（28日7時30分まで）^[2]
佐賀県白石町白石：371.0mm（28日7時00分まで。観測史上1位を更新）^[2]
佐賀県鳥栖市鳥栖：343.0mm（28日9時10分まで。観測史上1位を更新）^[2]

72時間雨量

長崎県平戸市平戸：621.0mm（29日9時20分まで。観測史上1位を更新）^[2]
長崎県松浦市松浦：521.0mm（29日9時40分まで）^[2]
佐賀県唐津市唐津：494.0mm（29日1時20分まで。観測史上1位を更新）^[2]

被害・影響

2019年10月4日17時現在の消防庁及び国土交通省による被害状況の集計^{[17][18][19]}。

- 死者 4人
- 重傷者 1人
- 軽傷者 1人
- 住家被害
 - 全壊 87棟
 - 半壊 110棟
 - 一部損壊 14棟
 - 床上浸水 1,645棟
 - 床下浸水 4,513棟
 - 非住家被害 11棟
- 土砂災害
 - 土石流等 6件
 - 地すべり 6件
 - がけ崩れ 159件

発表および報道によると、福岡県八女市で1名と佐賀県武雄市で3名が死亡となっている。死者のうち武雄市で住宅内の1名のほかは、いずれも車に乗車中だったと見られている^{[6][20][17]}。

大雨により福岡県の巨勢川、佐賀県の牛津川、松浦川、長崎県の江迎川が氾濫、洪水が発生した^{[6][21]}。

その他、福岡県南部や佐賀市などの市街地でも広範囲に冠水、佐賀駅構内なども浸水した^{[22][23][24]}。佐賀県多久市、小城市、杵島郡大町町、武雄市北方町などでも洪水により浸水、住民などが一時孤立した^{[17][25]}。ほか、福岡県で豪雨により直接、河川の堤防の斜面が一部崩れる被害も出たが、それによる決壊は無かった^[22]。

佐賀、長崎、福岡の3県のほか、大分県日田市、中津市などでも一部土砂崩れや浸水による被害があった^[26]。

各電話事業者では災害伝言ダイヤル（171）を開設した。

産業への被害・影響

佐賀県杵島郡大町町では、大雨による冠水の影響で佐賀鉄工所大町工場から油が流出し、付近一帯に流れ込んだ^{[6][27]}。油種は、ボルト加工等の冷却材に使用する焼入油で、誤って飲み込むと下痢や嘔吐、蒸気を吸い込むと気分が悪くなるおそれがある^[27]。報道によると約5万リットルが流出し^[27]（後に工場内に焼入油11万130リットル、金属加工油2980リットルが流出したと判明。但し工場外への流出量は不明^[28]）、量としては日本国内最大規模と言う。また、農業被害の甚大さや除去作業は容易ではないと指摘する声もある^{[27][29]}。油は付近の多くの水田やビニールハウスに流れ込み、収穫前の農産物が油と泥まみれとなり、出荷は絶望的となっている^[30]。油の回収は自衛隊や国土交通省、佐賀県などによって行われ、9月10日に終了した。期間中、油吸着マット21万枚が使用され

た^[31]。水田26ヘクタール、大豆15ヘクタール、キュウリ0.2ヘクタールと民家およそ100棟が被害にあった^{[32][33]}。油の一部は近くの六角川水系から有明海に流出した可能性があり、ノリ養殖ほか漁業への影響も懸念されている^[34]。8月29日に六角川河口部で薄い油膜を確認したため、国土交通省は港湾業務艇、海洋環境整備船のほか佐賀県や佐賀県漁連の船舶と共同で油の自然浄化促進のため航走攪拌を31日まで実施した^[18]。結果的に影響はなく、佐賀県有明海漁協は佐賀県知事に対応に感謝すると共に県産ノリ3000枚を被災地に贈った^[35]。佐賀鉄工所は8月30日付けで杵藤地区広域市町村圏組合から消防法に基づく使用停止命令が出ていたが、熱処理炉の周囲を高さ90センチの鉄の壁で囲んだり、工場敷地の東と南側に約600メートルのオイルフェンスを常備するなどの対策を行ったことで9月6日に使用停止命令は解除され、10日に試運転として操業を再開した^[36]。

佐賀県伊万里市では、別の鉄工所から油流出事故が発生した^[17]。

28日は市街地でもコンビニエンスストア、スーパーマーケットなど商業施設の臨時休業が相次いだ。大規模小売店舗は複合商業施設「セリオ」に入居する「スーパーモリナガ牛津店」が3週間休業^[37]。「マックスバリュ武雄店」は被害が大きくそのまま閉店に追い込まれたがディスカウントストア「ザ・ビッグ武雄店」に業態を転換して11月に再開した^[38]。個人営業の店舗では廃業も見られた^{[39][40]}。運送業者やタクシー業者、郵便局などでも車両が浸水し、輸送にも影響が出た。一部では停電が発生した^[23]。

福岡県の一部の工場では28日から29日にかけて操業を停止していたが順次再開した^[41]。

農林水産業では10月4日17時現在で被害総額213.5億円となっている^[19]。

交通への被害・影響

27日から28日に掛けて長崎、佐賀、福岡各県の在来線鉄道で運休が相次いだほか、JR佐世保線、筑肥線（西唐津 - 伊万里間）が線路冠水などで30日まで運休。これにより特急「みどり・ハウステンボス」も同日まで運休した。筑肥線不通区間はバス代行を行った^[42]。

長崎自動車道下り線武雄北方IC - 武雄JCT - 嬉野ICが土砂崩れにより通行止め^{[43][42]}。応急修理を行い9月10日から対面通行が実施されたが完全復旧は2020年秋となる見込み^[44]。

空路は28日、29日の両日で43便が欠航したが空港施設等に被害はなかった^[18]。

国道385号は吉野ヶ里町坂本峠で土砂崩れが発生し8月27日20時より通行止め^[18]。

長崎、佐賀、福岡各県内の一般道路では土砂崩れや冠水などによる通行止めが相次いだ。

ライフラインへの影響

佐賀市で28日時点、750世帯で断水^[6]、30日に解除^[45]。ほか、27日から30日にかけて福岡県八女市、長崎県佐世保市、壱岐市など合計2,915世帯で浄水場冠水や配水管破損のため断水した^[18]。雷や倒木、土砂災害により佐賀市、武雄市、小城市など320戸で27、28の両日に最大15時間停電^[23]。福岡県でも約360戸で停電した^[46]。

同県大町町では洪水により、工場から流出の油混じりの泥水が1階に流入した「順天堂病院」が一時孤立状態となった^{[6][47]}。30日までに孤立状態は解消し^[48]、2日には入院患者への病院食提供が^[49]、9日には外来診療が再開された^[50]。この一時孤立状態となりながら医療体制を維持したことは災害につよい病院作りの参考になると評価された^[51]。

文化財への被害